

起案 2024年9月25日

「日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要」に投稿されようとする学会員のみなさんへ

論文投稿に際して確認いただきたいこと

日本福祉教育・ボランティア学習学会 機関誌編集委員会

[1] 機関誌の構成（掲載されている論文等の種類）

本学会では、「日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要」（機関誌）を年2回、発行しています。第43号からは、紙冊子の発行を停止し、J-Stageへの登載に一本化しました。

本誌の発行の目的は、「福祉教育・ボランティア学習に関する実践的かつ学際的な研究成果の発表を通して、福祉教育・ボランティア学習の実践の創造と研究の発展に資すること」（日本福祉教育・ボランティア学習学会機関誌編集規程第1条）です。

編集規程の第4条では、以下のように、機関誌の内容が規定されています。

(1) 研究論文・研究ノート・調査報告・実践報告欄は、本会会員及び海外における同学者の福祉教育・ボランティア学習に関する研究発表にあてる。

- ・ **研究論文**は、新しい価値のある事実や結論を含み、研究方法を明確にして論じられているものとする。福祉教育およびボランティア学習に関して論証する課題が明らかにされた上で、その発展に資するものとする。
 - ・ **研究ノート**は、福祉教育・ボランティア学習学会に対し根拠を示して問題提起したものとする。具体的には、研究論文には至らないが萌芽的段階の研究として価値あるもの、福祉教育実践やボランティア学習の内容構成を検討した研究やプログラム開発についての研究などである。海外文献や新たな教育研究動向の紹介など、資料的価値があると認められるものも含む。
 - ・ **調査報告**は、福祉教育・ボランティア学習に関する国内外での調査結果を報告するもので最新のデータとして有用なものとする。
 - ・ **実践報告**は、福祉教育・ボランティア学習に関する実践を広く共有するために報告するものとする。
- (2) **書評欄**は、国内外の福祉教育・ボランティア学習に関する著書、論文、資料等の紹介にあてる。
- (3) **文献収録欄**は、本会会員の年度毎の著書、論文、資料等の文献収録にあてる。
- (4) **学会彙報**は、大会や部会、事務局等の活動状況の紹介にあてる。

うち、会員からの投稿を受け付けているものは、(1)に示された研究論文、研究ノート、調査報告、実践報告など（投稿規程第1条）です。

[2] 投稿する前に

まず、編集規程、投稿規程、執筆要領、倫理ガイドラインに適った様式で執筆されているかどうかを確認してください。

本学会は、教育学から社会福祉学に至る多様な研究者、実践者で構成されており、それぞれの学問領域における論文執筆には「流儀」があることは承知しております。ただ、それぞれの研究者、実践者がそれぞれの「流儀」のままに執筆されますと、編集委員会における事務負担が激増し、本来編集委員会が担うべき、公正な査読のご協力を前提としつつ、本学会独自の研究領域である福祉教育・ボランティア学習の研究と実践の深化と発展のために注力することが困難となります。

実際、投稿者のみなさんにとくに注意していただきたいのは、技術的には、書誌情報の記載方法（本文中での書き方、文献リストの書き方）はもとより、誤字脱字、用字用語の再確認、倫理ガイドラインにのっとった倫理的配慮の明示や固有名詞の伏字（その学術的意義が著しく損なわれる場合には、先様の了解を前提としつつ、その限りではありません）です。

また、公正な査読を行うために、投稿者が特定される恐れのある所属機関、研究調査対象等の伏字です。こちらの伏字については、掲載決定後、固有名詞に戻す手続きをしていただけます。

編集規程、投稿規程、執筆要領、倫理ガイドラインに適った様式で執筆されているかどうかを確認していただく投稿直前の最後の機会として、投稿チェックリストをご活用いただければ幸いです。

[3] 「査読を受ける」ということについて

投稿された論文は、査読を経て、機関誌に掲載されます。査読は、学会員のなかで選ばれている査読委員のうちから原則2名により実施されます。各投稿論文を担当いただく査読者は、編集委員会の合議で決定されており、研究分野や研究手法などを考慮しつつ、異なる視点からの査読が期待される人選に努めています。そのため、査読者の評価が分かれる投稿論文が少なくなく、その場合には、3人目、4人目の査読者に依頼することもあります。

査読者には、投稿された論文を、年2回の発行スケジュールを維持する工程管理上、おおむね1か月程度で審査することを要請しています。これは、投稿されようとするみなさんには、かなりのタイトスケジュールであることがご理解いただけると思います。何か月、あるいは、何年もかけて研究してきた投稿論文を1か月で審査することは、かなりの重い職責であることは想像に難くないと思います。それを本学会では、査読者のみなさんに、無償で引き受けていただいています。さらに、査読者のみなさんには、編集委員会から、査読規程に基づきつつ、建設的なコメントをしていただくようお願いしています。

したがって、本機関誌にかかる査読は、「落とすための査読」ではなく、「「より良い研究論文とするためには、どこをどのように改めればよいか」を示唆する査読」になっている、とお考えいただきたいと思っています。

[4] 掲載決定から掲載（登載）まで

査読の結果、掲載が決定されると、その通知を投稿者に通知するとともに、掲載（登載）に向けて組版された論文の校正等の依頼をします。年2回の発行スケジュールを維持するためにも、迅速に対応するようにご協力ください。

[5] もし掲載不可になったら

査読の結果、「掲載不可」になることがあります。経験的には、最近の状況では、投稿された論文のうち、4割程度が当該号において掲載不可になっています。掲載不可の査読者コメントには、なぜ掲載不可なのかという理由はもとより、掲載されるためにはどこをどのように修正すればいいのかという示唆（ヒント）が含まれています。編集委員会では、それを十分に読み込んでいただき、改稿されたうえで、再チャレンジしていただけることを歓迎します。そのような営みを通じて、福祉教育・ボランティア学習に関する研究と実践の深化と発展のために、切磋琢磨していきましょう。

（了）